

2024 年度 秋冬学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

授業改善アンケート調査結果

1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016年にグローバル30人間科学コース（以下、G30）、2017年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。2020-2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から授業がオンライン化したことをうけ、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度春夏学期からは、すべてマークシート方式に変更した。

2024年度秋冬学期アンケート回答期間：2025年1月6日（月）～2月7日（金）

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、64.8%であった（参考：2023年度春夏学期72.9%、同年度秋冬学期71.5%）。

2024年度秋冬学期授業改善アンケート 講義科目
対象科目数・回答数

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	6	247
	行動系科目	12	335
	社会人間系科目	5	98
	教育系科目	11	307
	共生系科目	4	99
大学院科目	共通科目	6	43
	行動系科目	2	2
	社会人間系科目	3	20
	教育系科目	10	56
	共生系科目	1	3
G30科目		13	119
計		73	1329

回収数 1329 / 受講登録者数 2051 = 回収率 64.8%

※1 基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。

※2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

大阪大学人間科学部・人間科学研究科

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに 2010 年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

2. 授業改善アンケートの結果

2020-2021年度は、全科目をアンケート実施対象科目とし、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度よりすべてマークシート方式に変更した。その結果、2021年度秋冬学期の授業改善アンケート回収率20.6%から、2022年度秋冬学期は71.8%（51.2%上昇）、2023年度秋冬学期は71.5%（50.9%上昇）となり、大幅に改善をみせた。2024年度秋冬学期の回収率は64.8%であり、高い水準を保っているものの、例年よりも僅かに減少している。そのため、周知活動の徹底等、回収率のさらなる向上のための対策が必要だと思われる。

主要な評価項目である、授業の満足度に関する問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（5段階で数値が高いほど高評価を意味する）については、平均が4.32（前年度4.36）と、前年度並みに高い値となった。問9「この授業で学問的知識が身についたと思いますか」についても、「強くそう思う」という回答が27.5%（前年度30.9%）、「そう思う」という回答が63.7%（59.0%）と高い値を維持している。このことから、専門的知識の習得を求める学生の要望に応えた結果が、授業全体の満足度につながっていると考えられる。学系別集計については、G30科目において、問10に対し「非常に良かった」と回答した学生の割合が前年度より大幅に上昇し（40.7%→54.6%）、問9でも「強くそう思う」と回答した割合が増加しており（34.2%→47.1%）、特筆に値する。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問1の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」と回答した学生の割合が79.5%となり、過去数年と比べて減少傾向にある（2021年度：90.1%、2022年度：85.0%、2023年度：82.1%）。また、問2の「この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」に関しては、近年「ほとんどなし」と回答した学生の割合が、2021年度の30.5%から2022年度には23.4%、2023年度には22.1%へと改善していたが、本年度は29.0%と再び増加する結果となった。これらの結果から、出席率および授業外学習時間については、今後も継続的に経年観察を行い、さらなる減少が見られる場合には、改善のための工夫や対策を検討する必要があると考えられる。

授業内容の難易度を尋ねる問3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対して「適切」と回答した学生の割合は74.6%（前年度71.5%）、授業内容の理解度を尋ねる問4「授業内容はよく理解できましたか？」に対しては「強くそう思う」が17.2%（前年度19.3%）、「そう思う」が65.3%（前年度62.4%）、授業方法の工夫等を尋ねる問8「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は「強くそう思う」が34.1%（前年度37.7%）、「そう思う」が57.6%（前年度55.3%）と、いずれも前年度並みに高い値を維持している。これらの結果から、授業で扱う題材選定の適切さや、授業の進行形式の改善が、問9の学問的知識の習得および問10の満足度の向上に寄与しているといえる。

以下より、2023年度秋冬学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

※学系別集計については以下のように集計している。

- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。

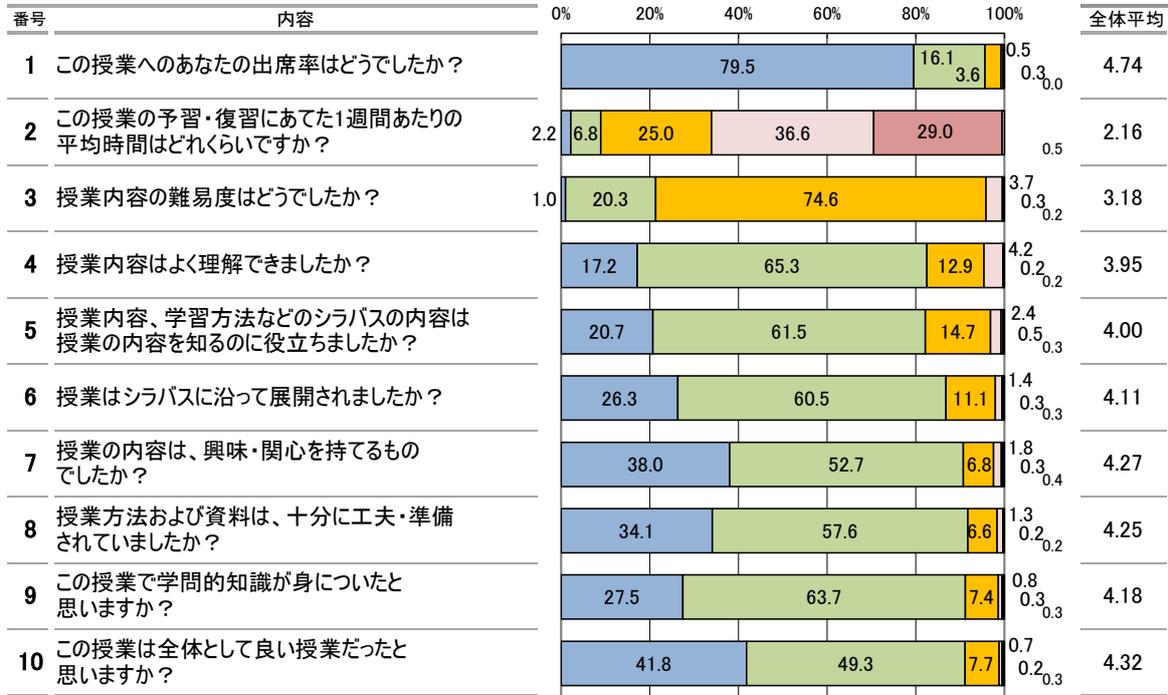
大阪大学人間科学部・人間科学研究科

- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

授業改善アンケート

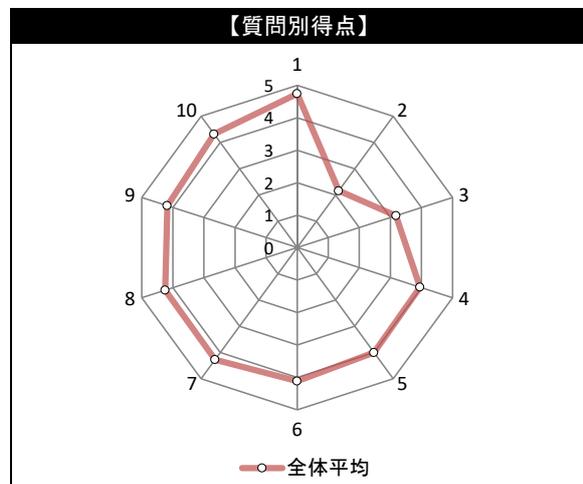
大阪大学 人間科学部・人間科学研究科
2024年度秋学期

<h1>全体集計</h1>	履修者数	2051
	回答数	1329
	回答率	64.8%



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	不明(無回答を含む)
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例: 回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)



大阪大学 人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート 2024年度秋学期

学系別集計【全体】

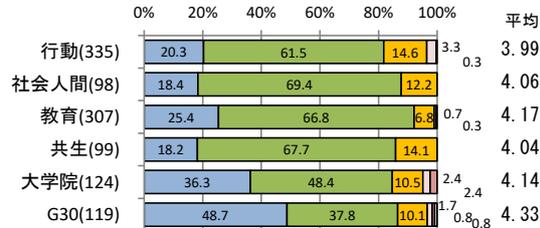
※グラフ内数字は回答率(%)

回答凡例	5	4	3	2	1	不明(無回答を含む)
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



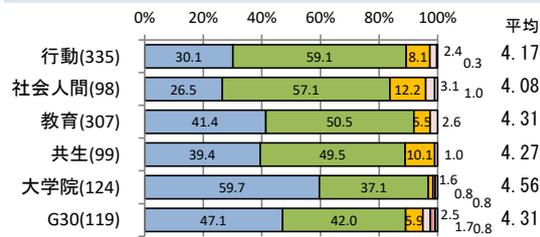
6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



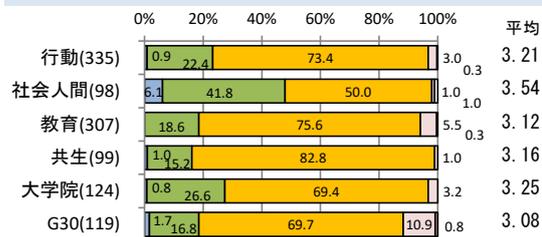
2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれくらいですか？



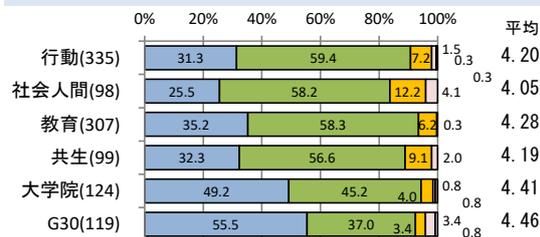
7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



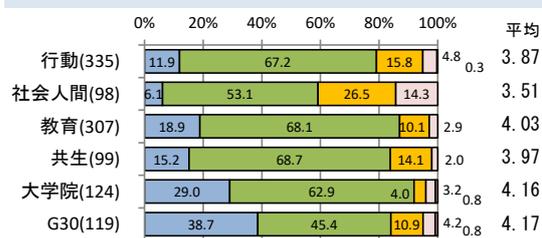
3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



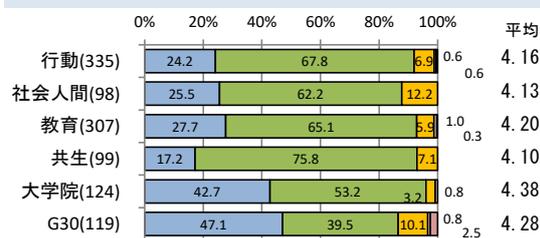
8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていませんか？



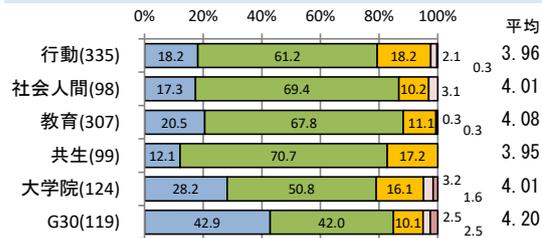
4. 授業内容はよく理解できましたか？



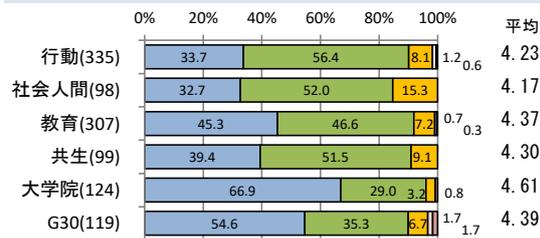
9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



＜満足度上位の科目＞

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 73 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 40 科目であり、平均値 4.32 を上回ったのは 16 科目であった。

2024 年度秋冬学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	学校社会学	27	4.85
2	生物人類学	15	4.73
3	共生行動論 I	28	4.64
4	教育哲学	24	4.54
5	安全行動学	34	4.47
6	教育文化学	65	4.46
7	司法・犯罪心理学	31	4.45
8	文明動態学	18	4.44
9	心理実習	14	4.43
9	教育法学	14	4.43

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	教育分野に関する理論と支援の展開	15	4.80
2	心理実践演習 II	13	4.77
3	哲学と質的研究特講	10	4.60

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

【行動学系】

入戸野 宏

「基礎心理学（知覚・認知心理学）」は今年度から新しく担当することになった授業であり、海外の心理学教科書（オンライン版）を利用して包括的な知識を提供することをめざした。毎回グループディスカッションを取り入れ、毎回そのテーマについての意見や感想をCLEで提出してもらった。学生の授業評価は平均的であったので、次年度以降は微調整を加えながら実施していく。

鹿子木 康弘

アンケート結果を見ると、講義系の授業では、おおむね好意的な評価を受けている。しかし、予習・復習の時間が短い学生が散見された。講義系の科目なので予習・復習の負荷をかけるべきか難しい側面もあるが、できるだけ考慮したい。

また、授業中に考えさせる時間や質問の時間をできる限り設けたが、chatのほうが質問しやすいという意見もあった。受講人数が多い場合は、chatで意見をきくということが有効かもしれない。

山本 倫生

一度講義や演習を受講しただけでは統計学の理論的な部分まですべてを理解することは困難ですが、受講者は各自でしっかりと取り組み、授業内容を習得していたように思います。今後学習を継続することでさらに理解を深めていくことを期待しています。

篠原 一光

応用認知心理学（知覚・認知心理学）：例年と同様の結果・傾向であると思われるが、全体平均と比べて全体にやや評価が低いように思われる。次年度の改善点として、より受講生の関心を引きうる内容となるよう内容の更新につとめることと、特に復習のための材料提供を工夫したい。

中井 宏

秋冬学期の安全行動学では、「身近な交通事故危険箇所を抽出し、過去の事故データを分析して、対策を考えさせる」中間課題もあるのに、予習復習が「ほとんどなし」が半数近くいて意外である。真面目にやったらかなりの時間がかかると思うので不思議。また、毎回の出席人数に比べて回収率が低いのは私の科目だけでなく、全体を通じてなのでしょうか？

集計数を見ると、行動学系は少ない学生数ながら、よく回答してくれてるのでしょうか？

西村 剛(中野 良彦)

西村です。中野先生の後任として「生物人類学」を初担当しました。比較的高評価をいただいて感謝しています。熱心な受講者に恵まれました。次年度の改善点などもコメントいただいたので、参考にしながら、改善とアップデートを進めていこうかと考えています。予習復習を促進する手立てが課題として見えましたので、検討していきたいと思っています。

山田 一憲

ニフレルで実施したワオキツネザルの観察実習が好評だったということがよくわかりました。一方で、だからといって比較行動学研究分野に入って、フィールドワークをして、動物の行動観察で卒論を書こう、となるわけではないということもよくわかりました。これは相性やフィールドワークにかかるコスト（時間）の問題なので、どうしようもないことですね。私は、比較行動学の間口を広げて、楽しく安全な授業や実習の機会を提供して、一緒に研究したいという学生の到来を待ちたいと思いました。

青野 正二

当科目の質問別得点と全体平均の質問別得点を比較すると、いずれの質問においてもほぼ同程度の結果が見られた。実際に、10項目の質問それぞれについて、当科目と全体平均の差をとり、全項目で平均値を求めるとマイナス 0.29 であった。また、当科目の質問別得点を学系別集計（講義）の行動学の平均と比較して、先と同様に全項目で平均値を求めるとマイナス 0.20 であった。この傾向は、昨年度と比べてよい方向にシフトしており、特に理解度の改善が寄与していることが考えられた。（科目：環境評価論）

【教育学系】

藤野 陽生

臨床心理学特講 II 教員の体調不良などイレギュラーな事態もあったが、受講生の協力もあり、無事に進行できた。次年度以降は、集中講義の形態でなくなるため、形式や内容をアップデートして開催形態に応じた工夫していきたいと考える。

佐々木 淳

臨床心理学概論

コメントを拝見し、一定の教育の成果はあったものと考えています。臨床心理学を知っていただくために、より一層のブラッシュアップをしていきたいと思います。

野坂 祐子

毎回のワークにも積極的に参加いただけて、お互いにとってよい学びになったと思います。

予習・復習の時間が十分ではないようでした。課題を出さなくても、自主的に学ぶことを期待します。

高田 一宏

統計や映像資料を使いながら具体的な例を示したことが受講生には好評だった。ただ、講義形式ということもあり、予習・復習はあまりしなかったように思われる。どのような工夫ができるか、検討したい。（教委文化学）

荒牧 草平

新設の授業だったので、難易度の設定が十分ではなく、やや難しかったかもしれません。次回以降はもう少し難易度を下げ、理解しやすくしたいと思います。

岡部 美香

アンケートの回答をありがとうございました。今期は、さまざまな会議が授業に重なり、15回授業ができず、たいへん失礼しました。次期から気をつけたいと思います。「学びとなる楽しい授業」と言ってもらえてうれしいです。そのように言ってもらえるように、これからも工夫をしたいと思います。

藤川 信夫

ほぼ平均に近い数値であったため、次年度も引き続き努力したいと思います。

【共生学系】

稲場 圭信

今年度「共生社会論Ⅲ」は、私の出張などで休講や予定変更があり、シラバス通りに進まないことがありました。来年度は改善します。

2024年度人間科学研究科／人間科学部 授業アンケート回答結果 計16名分